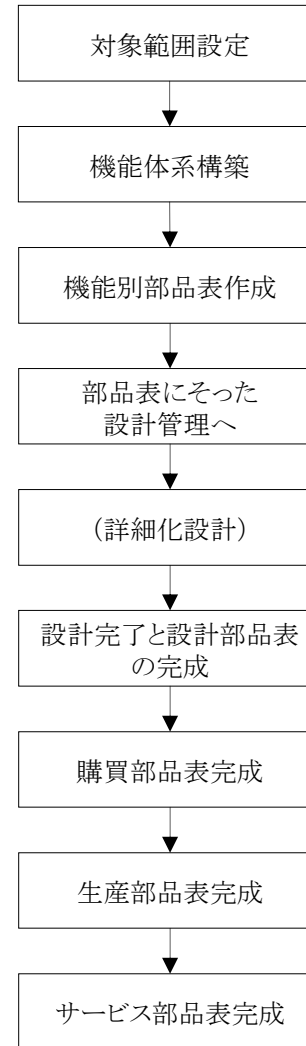


6.6 部品表作成管理

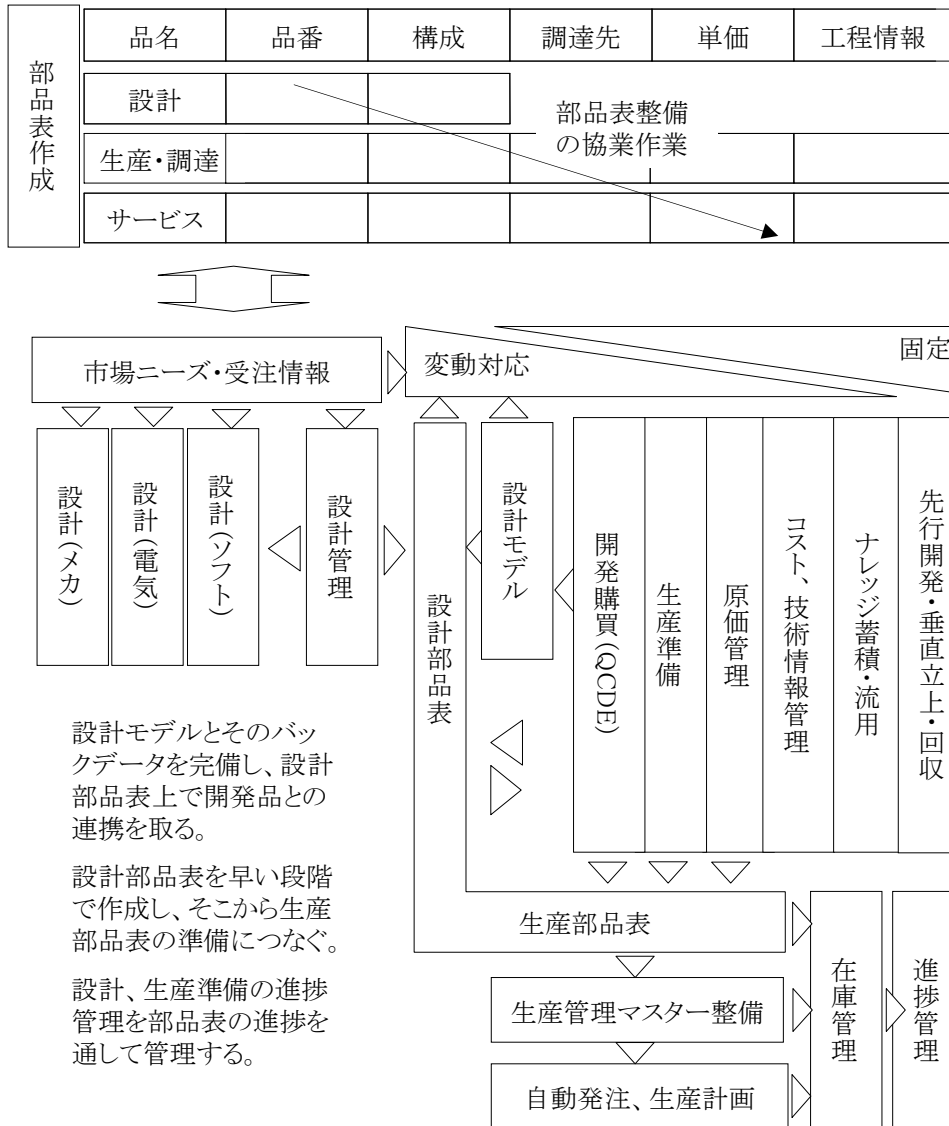
部品表の作成は生産の部品展開のためにのみ使うという企業が多く、設計時点では価値を認識せず、義務として作るという企業が多いようです。しかし設計時点で部品表の価値を理解し、有効活用することで、設計のための部品表として、活用することが可能です。これにより設計が迅速で、効率よくなり、生産準備も早くから並行してできるようになります。

設計活動は、機能体系、機能条件を検討しながら詳細に詰めていきます。機能体系自体は都度設計の際に大きくは変わりません。したがって基本の機能体系に沿った構成と部品表の構成を合わせおき、順次それを詳細化、図面化していくことで、部品表中心の設計管理が可能になります。部品表を骨組として設計管理に活用していくことです。さらにユニット、部品等の標準化と合わせて活用するとその有効性が発揮されます。部品表の情報の中に、購買情報、生産情報、原価情報等々を盛り込み、流用設計のキーとして活用すると良いでしょう。このように設計管理の骨組みとして、設計の早い段階から設計部品表を作成管理し、順次生産・調達・サービスの部品表として拡大していくのが良いでしょう。

展開ステップ



部品表連結作業



設計モデルとそのバックデータを完備し、設計部品表上で開発品との連携を取る。

設計部品表を早い段階で作成し、そこから生産部品表の準備につなぐ。

設計、生産準備の進捗管理を部品表の進捗を通して管理する。